

「本丸と不屈」

政治や政治家のことは、テレビでも新聞でも、たくさん報道されてはいても、一般的に世の中の印象は「闇の中」といった感じでしょうか。私も、プライベートで初対面の人に出会って「ところでお仕事は？」と聞かれ、「代議士秘書をしています」というと、大抵驚かれます。

そして、次の反応は、大別して二つ。

一つは「うわっ、これまたダーティーな職場で大丈夫なんだろうか、この人は」という、少々引き気味の反応。詐欺師かヤクザやさんかに出会ってしまった時のような戸惑いが、どこかに感じられる反応です。

もう一つは、「すごーい、かっこいい」という反応。いずれも、私が枝野事務所でやっている仕事とはかけ離れているのですが、ある種、政治というのは権力を扱うものなので、良い方向に使えるれば「かっこいい」ものであり、悪い方向に使ってしまうと「ダーティー」というのは、シンプルにその通りということになります。

さて、その両極端な印象のあるナゾの職場で私が見たもの、学んだことは何か。率直に言って、現場というのは、「かっこいい」ものでも「ダーティー」なものでもなく、淡々と仕事をして、それほど特殊でもないことが多いのですが、それでも、この職場ならではの学びというもの、あるように思います。

一つ。それは、本丸を見失うな、ということ。

二つ。それは、自滅をするな、ということ。

「本丸を見失わない」…これは、言うは易く行うは難し！

政治家に妥協はつきものと言います。

妥協というと何か悪いものだという印象が強いかと思いますが、意見が違う人どうしが一緒にこの国で生きていかなければならないのですから、より良い方向を目指して「折り合う」というのも、時に必要なことです。いつまでもお互いにそっぽを向いてけんかかしないのでは、何も前に進みません。

例えば、景気を浮上させるには、不良債権処理を一気に進めることが必要だという思いがある中、与党から「不良債権処理を(恐る恐る)やります」という案が出てきた…読むと、同じ不良債権処理でも、そのやり方では不十分でかえってダメだと思う…さて、この時、少しでも不良債権処理が進むなら賛成とするか、そんな中途半端なことをやってもかえって本来の処理を遅らせるだけだからいっそ反対とするか…難しいところです。

反対すれば「その目的に反対なんて、ひどい」と情報の乏しい有権者は思うし、かといって、賛成してしまったら、この不十分なまま法律が固定されてしまう。何を「本丸」と設定するかで、こういったケースへの対応は変わってきます。選挙民へのウケが本丸である人、所属政党内での評価が本丸である人、日本を救うことが本丸である人…etc。本丸の為には、時に失うように見えてもがまんする、これも必要なのです。小泉さんの抵抗勢力との闘いも、こういう視点で見ると、わかりやすいでしょう。…彼の本丸は、本当の「聖域なき構造改革」なのか、自説を曲げないとつっぱることなのか、はたまた…。変につっぱると、本丸を取る前に、犬死にすることになります。しかし、犬死にしないようにと、必要と思われる「妥協」を重ねていくうちに、本丸を見失い、自分自身が変わってってしまうことすらあります。でも、それでは、政治をやっている意味がありません。やはり、どんなに難しくても、「本丸」を見失ったら、政治は害にこそなれ、益をもたらすことはできなくなるのではないのでしょうか。

そして、「本丸」をとるためにも、必要なのは、2番目の「自滅しない」ということです。

ああ、これも、言うは易く、行方は難し！

確かに政治家の皆さんは、血気盛んというか、素晴らしい自己主張とエネルギーに溢れている方々の多い世界なので、その闘いとなると、すさまじいものがあります。よって、その中で勝ち残るには、倒されたらいかん、というのはあります。しかし、重要なのは、「相手に倒されない」ことより、「自分でつぶれないこと」だと、この世界に入ったばかりの頃、この世界の先輩にあたる友人から聞かされました。その時は、正直「???」という感じでしたが、今ではこの言葉に、深く深く頷きます。例えば、あるピンチに遭遇した時、まだそうなくてもいいのに、勝手に結果を予測して「もう俺も終わりだ」と思う…これは典型的な自滅です。闘って負けたのではなく、闘いもしないのに敗退しています。政治の場面でも、よくこれを見かけます。或いは、周りから非難された時(彼らは大量の非難を浴びる立場です)、誰だって落ち込みます。自己嫌悪にも陥るでしょう。でも、そこで「もう俺なんかダメだ」と思ったらおしまい。自滅です。…政治家たるもの、「それでも私には、まだまだやらなければならないことがある。今、ここで落ち込んでいる場合ではない！」と復活しなければなりません。落ち込んでいるうちに、たちまち不戦敗になってしまったりするのです。

最初にこの世界に入った時、政治家には怪獣のようにタフな人が多いと、つくづく感じました。タフというと褒め言葉ですが、人によっては厚顔無恥と表現するかもしれません。こんな魑魅魍魎の世界に来てしまってよかったのかと、戸惑ったこともありました。

しかし、政治家が、なぜ怪獣のようにタフなのか、その秘密が、見ていてようやくわかりました。彼らは、自滅してはいけな存在なのです。

確かに、ただ議席にぶらさがる為だけ、バッチをつけて威張りたいだけの為に、生き残っている人もいるでしょう。しかし、本当に真面目に、有権者の付託という「本丸」を実現する為にも、ここで自滅なんかしてはいかん、という側面もあるのです(褒めすぎ?)。

ところで。

ちょっと離れて見ると、これは政治の世界に特殊なことではないのかもしれませんが。

自分の人生を振り返って、自分はちゃんと、自らの人生の「本丸」を見失わないで来たかなあと、思わず思い起こしてしまいます。そして、今までの辛かった時を思い出して、あの時自滅モードに入らなければ、もっと力が出せたかもしれなかったなあと。浪人しながら受験勉強を続けていた時、銀行を辞めてから後、自分の道をなかなか見つけられなかった時など、あれこれ考えすぎて落ち込み、前に進めなくなっていたこともありました。

自分をダメだと思ったところで、何も力は湧いてきません。誰にも何もしてあげられません。必要な反省をし、二度とそれを繰り返さない方法さえ考えたら、後は、即復活すること！そして、自分にできることをやる、自分のプラスの部分で周りの力になる！…ブラボー、なんて生産的なんでしょう、不屈の精神よ！

いや、実に「必要な反省」…ここを落としてはいけないのですが。政治業界の各位様。